

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

製品名 : **SPLクリーナー**
製品種類 : 塗料
使用上の制限 : 業務用
会社名 : シーカ・ジャパン株式会社
住所 : 東京都港区元赤坂 1 丁目 2 番 7 号 赤坂 K タワー7F
電話 : 03-6434-7291
緊急連絡先電話 : Sikaテクニカルセンター 047-436-0811
SDS No. : 211400029-2

2. 危険有害性の要約

製品のGHS分類、ラベル要素
GHS分類
物理化学的危険性
引火性液体: 区分 2
健康に対する有害性
急性毒性(経口): 区分 5
急性毒性(経皮): 区分 5
急性毒性(吸入): 区分に該当しない
皮膚腐食性/刺激性: 分類できない
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性: 区分 2A-2B
呼吸器感受性: 分類できない
皮膚感受性: 分類できない
生殖細胞変異原性: 区分に該当しない
発がん性: 区分に該当しない
生殖毒性: 区分 2
特定標的臓器毒性(単回ばく露): 区分 1(中枢神経系、腎臓、全身毒性)、区分 3(気道刺激性)
特定標的臓器毒性(反復ばく露): 区分 2(血管、肝臓、脾臓)
誤えん有害性: 区分 2
環境有害性
水生環境有害性 短期(急性): 区分に該当しない
水生環境有害性 長期(慢性): 区分に該当しない
オゾン層への有害性: 分類できない



注意喚起語: 危険

危険有害性情報

引火性の高い液体及び蒸気
飲み込むと有害のおそれ
皮膚に接触すると有害のおそれ
強い眼刺激
生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い
臓器の障害(中枢神経系、腎臓、全身毒性)
呼吸器への刺激のおそれ
長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ(中枢神経系、腎臓、肝臓)
飲み込んで、気道に侵入すると生命に危険のおそれ

注意書き

安全対策

取扱う前に全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わない。
保護手袋/保護眼鏡/保護衣/保護面などの個人用保護具を着用する。
粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入してはならない。
熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざける。ー禁煙。
容器を接地する/アースをとる。
静電気放電に対する予防措置を講ずる。火災を発生しない工具を使用する。
取扱い後は手洗い・うがいをする。
この製品を使用するときに、飲食または喫煙してはならない。
環境への放出を避ける。
容器は密閉しておく。

応急措置

気分が悪い時は、医師の診断/手当を受ける。
飲み込んだ場合:直ちに医師に連絡する。口をすすぐ。無理に吐かせてはならない。
皮膚(または髪)に付着した場合:直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぎ皮膚を流水/シャワーで洗う。
吸入した場合:空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。
眼に入った場合:水で数分間注意深く洗う。コンタクトレンズを着用し容易に外せる場合は外し洗浄を続ける。眼の刺激が続く場合、医師の診断/手当を受ける。
暴露または暴露の懸念がある場合:医師の診断/手当を受ける。
汚染した衣類を再使用する場合は洗濯する。
漏出物を回収する。

保管

施錠して保管する。
直射日光、凍結を避け、換気の良い涼しい所で、容器を密閉し保管する。

廃棄

内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄する。

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別 :単一製品
化学名 :2-プロパノール

成分名	含有量(%)	CAS No.
イソプロピルアルコール	99.9以上	67-63-0

4. 応急措置

吸入した場合

適切な呼吸保護器を使用して、当人を速やかに暴露場所から移動させる。
もし呼吸が停止している場合、人工呼吸を行う。安静にしておく。
速やかに医師の手当を受ける。

皮膚(又は髪)に付着した場合

直ちに汚染された衣服や靴を脱ぎ、接触部を多量の石鹼水で十分に洗浄し、医師の手当を受ける。
衣服は洗濯してから再利用のこと。

目に入った場合

直ちに多量の水で15分間以上洗眼し、医師の診断を受ける。

飲み込んだ場合

誤って飲み込んだ場合、無理に吐き出そうとしてはならない。
安静にし、速やかに医師の手当を受ける。
但し被災者に意識がない場合は、口から何も与えてはならない。

最も重要な徴候及び症状

データなし

応急措置をする者の保護

適切な保護具(保護メガネ、保護マスク、手袋等)を着用する。換気を行う。

5. 火災時の措置

適切な消火剤

制御された条件下で燃焼させるか、或いはアルコール型泡消火剤又は粉末消火剤で消火する。液状流出物を泡で覆うようにする。漏洩物への火災は、多量の水を注ぎ込むことにより鎮火する可能性がある。

不適切な消火剤

データなし

特有の危険有害性

データなし

特有の消火方法

火災にさらされた表面を冷却することと、人間を保護するために水噴霧を使用する。可燃物を火災現場から遮断する。もし漏洩物又は流出物が着火していなければ、蒸気を消散させるため及び漏洩を止めようとしていた人の保護のために水噴霧を行う。

消火を行う者の保護

消火作業の際には必ず保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

風下の人を退避させる。

漏出した場所の周辺にはロープを張るなどして人の立ち入りを禁止する。

付近の着火源となるものを速やかに取り除く。

作業の際には必ず保護具を着用する。風下で作業をしない。

環境に対する注意事項

流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を及ぼさないように注意する。回収した物質の廃棄に際しては専門家に相談して、その地域の廃棄に関する規則を遵守する事。

回収、中和 ならびに 封じ込め及び浄化の方法/機材

漏出液が少量の場合は、多量の水を用い、十分に希釈して洗い流す。

多量の場合は、土砂、ウエス等で流れを止め、出来るだけ回収する。残分は 多量の水を用い、十分に希釈して洗い流す。

二次災害の防止策

着火源を除去する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

(取扱者のばく露防止)

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入してはならない。

漏れ、あふれ、飛散しないようにし、みだりに蒸気を発生させない。

皮膚、粘膜又は着衣に触れたり、目に入らないように、保護眼鏡、保護手袋等の適切な保護具を着用する。

取扱後は手・顔等は良く洗い、休憩所等に手袋等の汚染保護具を持ち込まない。

容器は注意深く取り扱う。内圧を調整するために、栓はゆっくり開ける。

(火災・爆発の防止)

熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざける。一禁煙。

火花を発生させない工具を使用する。静電気放電に対する予防措置を講ずる。

容器には、空になった後も蒸気が残っている。空又は空に近い容器を切断、穴あけ、溶接などの処置をしてはならない。

炎、熱源或いは他の点火源の近くで取り扱ったり、開封してはならない。

局所排気、全体換気

屋外または換気のよい場所でのみ取り扱う。

注意事項

加熱してはならない。

安全取扱注意事項

保護手袋/保護衣/保護面を着用する。

取り扱う前にすべての安全注意を読み理解する。

過去にアレルギー症状を経験している人は取り扱わないこと。

接触回避:使用するまで密閉しておく。

配合禁忌等、安全な保管条件

適切な保管条件

施錠して保管する。

直射日光、凍結を避け、換気の良い涼しい所で、容器を密閉し保管する。

保証期限を過ぎた製品は速やかに廃棄する。

貯蔵場所で使用する電気機器は防爆構造とし、機器類は全て接地する。

避けるべき保管条件

直射日光が当たる場所。屋根がない場所。高温になる場所、およびその隣接した場所。

開封状態での保管。

炎、熱源或いは他の点火源の近くで貯蔵してはならない。

配合禁忌

消防法で定める混載禁止物質との同一保管は禁止。

セットで販売している化学物質以外との配合は禁止。

容器包装材料

他の容器に移し替えてはならない。

8. ばく露防止及び保護措置

職業ばく露限界値、生物学的限界値等の管理指標

管理濃度

(イソプロピルアルコール) 200ppm

許容濃度

ACGIH(米国産業衛生専門官会議)はイソプロピルアルコールに対し、許容濃度とし400ppm(983mg/m³)を短期暴露限界値として500ppm(1230mg/m³)を推薦している。

設備対策

労働衛生法上の規制に従って、可能な場合には、換気設備などの施設上の技術的な対策を講じて作業者を保護しなければならない。取扱い場所の近くにシャワー手洗い洗眼設備等を設けその位置を表示する。

保護具

呼吸用保護具

必要に応じて、その有害性物質に対して適切な保護の出来る保護マスクを着用する。

手の保護具

保護手袋を着用する。

着用すべき手袋の材質:不浸透性の耐油性手袋(アクリロニトリル、ブチルゴム、ネオプレン系)

眼の保護具

保護眼鏡または防災面を着用する。

皮膚及び身体の保護具

保護衣および必要に応じて保護長靴、保護前掛けを着用する。取り扱う場合には、皮膚を直接曝さないような衣類を着けること。また化学薬品が浸透しない材質であることが望ましい。

衛生対策

取扱い後は、良く手洗いうがいをする。

この製品を使用するときは、飲食又は喫煙をしてはならない。

汚染した衣類を再使用する場合は洗濯する。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態 : 液体
色 : 無色
臭い : 芳香臭
融点/凝固点 : -89.5°C
沸点又は初留点及び沸点範囲 : 82.4°C
可燃性 : データなし
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界 :
 下限 : 2.0Vol%
 上限 : 12.7Vol%
引火点 : 11.7°C(TCC)
自然発火点 : 456°C
分解温度 : データなし
pH : 該当しない
粘度 : データなし
動粘性率 : データなし
溶解度
 水に対する溶解度 : 100wt.%
n-オクタノール/水分配係数 : データなし
蒸気圧 : 4.44kPa(20°C)
密度及び/又は相対密度 : 0.785g/cm³ (20°C)
相対ガス密度(空気=1) : データなし
粒子特性 : データなし
蒸気密度(空気=1.0) : 2.1
蒸発速度(酢酸ブチル=1) : 2.5

10. 安定性及び反応性

安定性

本製品は安全で、危険な重合物を生成しない。

危険有害反応可能性

極めて引火性が高い。

ガスや液体が漏れた場合、引火点以上の温度で容易に引火性混合物を生成しうる。

避けるべき条件

データなし

混触危険物質

強酸化剤

危険有害な分解生成物

異常な物質は生成しない。

11. 有害性情報

物理的、化学的及び毒性学的特性に関連した症状

急性毒性

経口毒性成分データ

(イソプロピルアルコール) rat LD50=5280 mg/kg

(イソプロピルアルコール) rat LD50=5480 mg/kg

(イソプロピルアルコール) rat LD50=4710 mg/kg

(イソプロピルアルコール) rat LD50=1870 mg/kg

上記データにより統計計算し、3437mg/kg

経皮毒性成分データ

(イソプロピルアルコール) rabbit LD50=12870 mg/kg

(イソプロピルアルコール) rabbit LD50=4059 mg/kg

吸入(蒸気)毒性成分データ

(イソプロピルアルコール) rat LC50=72600 mg/m³ (29512ppm)/4H
(イソプロピルアルコール) rat LC50=72865mg/m³(29620ppm)/4H

局所効果

皮膚腐食性・刺激性

ウサギ皮膚刺激性試験では、刺激性なし又は軽度の刺激性の報告があるが、ヒトでのボランティア及びアルコール中毒患者の治療のため皮膚適用した試験では刺激性を示さない。

眼に対する重篤な損傷・刺激性

ウサギでの眼刺激性試験では、軽度から重度の刺激性の報告があるとの記述があるが、重篤な損傷性は記載されていない。

感作性

呼吸器感作性: データなし

皮膚感作性: モルモットでのビューラー法による皮膚感作性試験では陰性であった。

皮膚炎発症例で2-propanolのパッチテスト陽性例には、低分子の1級又は2級アルコール、プロピレンオキシドにも陽性を示しており、2-プロパノールが原因物質か否か明確でない。

生殖細胞変異原性

in vivo でのマウス骨髄細胞を用いた小核試験で陰性である。

催奇形性 :データなし

発がん性 :データなし

生殖毒性

ラットでの飲水投与による2世代繁殖試験では、繁殖能及び出生子の発育に影響なかった。一方、ラットでの発育毒性・催奇形性試験では、催奇形性はなかったが、親動物に体重増加の低下、麻酔作用等の毒性を示した用量で、妊娠率の低下、吸収胚の増加、胎児死亡の増加等の生殖毒性が認められた。

短期ばく露による即時影響、長期ばく露による遅延/慢性影響

特定標的臓器毒性 単回ばく露

ラットでの吸入ばく露による活動性の低下があるとの記述、及びヒトでの経口摂取による急性中毒では消化管への刺激性、血圧、体温等の低下、中枢神経症状、腎障害が認められており、標的臓器は中枢神経系、腎臓及び全身毒性とした。ヒトで鼻、喉への刺激性が認められており、気道刺激性がある。

特定標的臓器毒性 反復ばく露 :データなし

ラットでの86日間又は4ヵ月間吸入ばく露試験で、血管、肝臓、脾臓に影響が認められたとの記述から、標的臓器は血管、肝臓、脾臓であるとした。

誤えん有害性

ヒトに関する情報はないが、ラットでの気管内投与により、24時間以内に心肺停止による死亡が認められており、かつ、動粘性率は概略1.6前後であることから、誤えん有害性があるとした。

12. 環境影響情報

生態毒性

水生毒性 成分データ

(イソプロピルアルコール) 魚類(ヒメダカ) LC50>100mg/L/96hr

水溶解度

水に可溶 水溶解度=1.00×10⁶mg/L

残留性・分解性

主として水中に残留すると思われる。

当物質は速やかに生分解され、OECDのガイドラインによると易生分解性である。

当物質は廃水処理施設で除去されると考えられる。

生体蓄積性 :データなし

土壌中の移動性 :データなし

オゾン層破壊物質 :データなし

その他の環境有害性情報 漏洩、廃棄などの際には環境に影響を与えるおそれがあるので取り扱いに注意する。特に製品や洗浄水が地面、川や排水溝に直接流れないように対処すること。

13. 廃棄上の注意

廃棄方法

当製品は廃棄物処理法において「特別管理産業廃物」に該当する。
本物質を埋め立てや、公共の下水・排水・天然河川で処分するのは適当でない。
本製品は灰分を含まないので、適切な処理により直接焼却処分する。

汚染容器及び包装

空容器は内容物を完全に除去してから処分する。
空容器は製品の残滓が入っているので、製品についての注意事項に従う。
毒性の蒸気やガスが発生するので、容器を電気又はガスによる加熱や溶断してはならない。
空容器は、業者による洗滌と修理をしないで再利用してはならない。
容器、機器装置等を洗浄した排水等は、地面や排水溝へそのまま流さないこと。

14. 輸送上の注意

国連番号、国連分類

国連番号 :1219

クラス :3

容器等級 :II

正式品名 : ISOPROPANOL

指針番号 :129

輸送の特定の安全対策及び条件

容器の破損、内容物の漏れがないことを確かめ、転倒、落下、破損の無いように積み込み、荷崩れを防止すること。火気厳禁。

陸上輸送 : 消防法、労働安全衛生法の輸送について定めるところに従う。

海上輸送 : 船舶安全法に定めるところに従う。

航空輸送 : 航空法に定めるところに従う。

15. 適用法令

毒物及び劇物取締法

該当する化学品を意図的的成分として含有せず、購入原料に不純物として含有するとの情報を受けていません。

労働安全衛生法

施行令18条 名称等を表示すべき危険物及び有害物（平成26年6月1日以前）

イソプロピルアルコール

施行令18条 名称等を表示すべき危険物及び有害物（平成26年6月1日施行分より）

イソプロピルアルコール

施行令18条の2 名称等を通知すべき危険物及び有害物

イソプロピルアルコール

別表第1 危険物（第1条、第6条、第15条関係）

危険物・引火性の物

特定化学物質障害予防規則

該当しない

有機溶剤中毒予防規則 第2種有機溶剤

イソプロピルアルコール

化学物質管理促進(PRTR)法

第1種指定化学物質:

該当しない

消防法

第4類 引火性液体アルコール類 危険等級 II

船舶安全法

引火性液体類 分類3

航空法

引火性液体 分類3

海洋汚染防止法
有害液体物質(混合物)

16. その他の情報

参考文献

JIS Z 7252, JIS Z 7253 : 2019

Supplier's data/information

化学物質総合情報提供システム (独立行政法人製品評価技術基盤機構NITE)

責任の限定について

本データシート記載内容は、現時点で入手できる資料、情報、データにもとづいて作成しておりますが、化学品の含有量、物理化学的性質、危険・有害性等に関しては、いかなる保証をなすものではありません。また、記載内容は新しい知見又は法規制の変更等により改訂されることがあります。

注意事項は、通常の取扱いを対象としたものなので、特殊な取扱いの場合には、用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用ください。

以上